

第4回中京独立戦略本部会議 議事概要 その1

本部長	主な意見
大村 秀章	○本日は、愛知・名古屋が強力で唯一の司令塔をつくり、スピード感をもって施策を実施できる体制や、県と市の連携・協調、役割分担のあり方について、私自身の考えをお示しし、さらに、今後の進め方について、ご了解をいただきたいと思います。 ○先月（9月8日）、2020年に東京でオリンピックが開催されることが決まった。東京が早く都市のリニューアルをし、世界の都として世界中から人と金を集め、日本を引っ張ることが日本の国益に叶うと思っている。一方、その時期に東京の一人勝ちになることは確実に、中京側からもっと頑張らなければならない。 ○7年後の2020年にオリンピック開催、その7年後の2027年に東京－名古屋間がリニア中央新幹線で結ばれる。この7年ごとの節目が大きなキーワードになるため、愛知・名古屋が同じベクトルで、一心にしてやっていくことが大事だ。 ○かねてから、愛知・名古屋では、東京23区のような分割は馴染まないのではないかと申し上げてきた。そこで、人、企業、情報などを呼び込み活力ある地域をつくり、力のあるところをさらに伸ばしていくために、経営統合という観点からベクトルを一つにして、それぞれの持ち場持ち場で力を発揮していったらどうかと考えた。もちろん、県民・市民の皆様のご理解が必要であり、十分議論して煮詰めていきたい。

	○今や日本の1人当たりGDPは、アジアではシンガポールに負けている。もっと思い切った枠組みをつくり、思い切って企業や人を呼び込んで経済を回していないと立ち行かない。愛知県と名古屋市が、方向性を一にして進めていくことは、日本の国益にもかなうと思う。 ○今後は、分科会でご意見をいただきながら、愛知県と名古屋市が共同で目標をもってやっていくか、役割分担をしてやっていくかなど、議論して進めていきたい。
--	--

河村 たかし	○税金は7割近くが東京に行ってしまっていて、民間のお金も大量に東京に流れている。政令指定都市の中で、国への上納率が最大なのは名古屋である。名古屋と愛知は日本の胴元みたいなもの。 ○名古屋・愛知と共に、何か新しい自治体ができ、名実共に日本を引っ張っていくことができれば、世界の経済と共にあると言える。今度オリンピックを開催することもあり、今は何でも東京だ。こういうときだから、知事と共に具体的にやれることをやっていきたい。 ○経済を発展させる大本はイノベーションにある。世界一の国際展示場やMITの日本版のようなものもつくりたい。 ○知事の案は現実的に進めながらやろうという発想だと思う。ただ、名古屋市と愛知県のあり方ということでは、尾張名古屋くらいで一緒になった方がいいと思う。名古屋市役所にも名古屋市役所のプライドがある。とりあえずは、知事の案についても、一つの考え方として受け止めたい。 ○中京都の都という名称だが、東京都を連想させるので、名古屋市を分割させる印象がある。しかし、私も知事も、おそらく市民の皆様も、分割を支持される方はほとんどいないと思う。名称については考えているところである。
---------------	--

本部員	主な意見
浅井 慎平	○東京はオリンピックが決まったが、名古屋・愛知もこれに負けないだけの具体的な目標を何か設定しないといけない。 ○目標が明確になれば、やらなければいけないことが嫌でも見えてくる。注目度についても、いくらか変わってくる。 ○東京にいと名古屋・愛知からのメッセージが皆無に近い。 ○目標は我々が共有するだけではなく、東京はもちろんだが、世界に届くようなものが何かできないか。 ○中京都の目指すべきシンボリックなものを、いくつか立ち上げて、色々と組み合わせながら考えていけばいいと思う。
井沢 元彦	○スケジュールが合わせやすくなることもあるので、分科会を設けることは賛成。 ○ホールディングスのようなものをつくるにしても、法律等による制約がある。どのようにして対処するのか。 ○長期の目標として、名古屋や中京都でオリンピックを開催することを考えてもいいと思う。計画は25年や50年のスパンで考えるものであり、いずれはアジアにまた順番が回ってくる。そのことについての考えを聞きたい。

	【大村本部長回答】 ○地域で方向性が煮詰まれば、法律は変えればいいので、それほど難しい話ではないと思っている。 ○長期の目標をどうするか、今後何を目指すのかは、十分に議論していく必要があると思う。
奥野 信宏	○東京と愛知が日本を支えており、名古屋が何をやるのか、関心が高まっている。 ○3点、対応が必要なことがある。1つ目に、発展エンジンが名古屋大都市圏だということ。大都市圏は、必ずしも災害に強くはないため、関西国際空港と中部国際空港が同時被災することを想定し、また、この地域が被災し東西の分断が起きないために、空港機能を強化しなければならない。さらに、首都圏のバックアップ機能を担うべき地域であるため、真剣に取り組み、情報発信をしなければならない。また、英語圏の人たちが生活してストレスを感じないまちをつくることも大事。 ○2つ目は、リニア中央新幹線の開業。東京と名古屋が時間的には地下鉄の移動圏になってしまったときに、どういう機能をどう配置するか、中部圏がどういう情報を発信できるか、議論しなければならない。 ○3つ目は、超高齢社会にあって、名古屋圏の生活スタイルが注目されているということ。突き詰めると、3世代同居である。高齢者にとって住みよいまちというのは、これからのアジアにおける都市間競争の要になるため、名古屋のライフスタイルを自信をもって推進していくべきだ。

木村 操	○県市がトップレベルで認識を共有し、ベクトルをあわせることが何よりも重要。 ○県民・市民に理解をしてもらうためにも、重複行政の徹底排除に留意をした上で、十分に検討を進めてもらいたい。 ○分科会で検討を進めると示されたことで、遅ればせながら、議論が軌道に乗ったのかと思う。スケジューリングをしっかりとすることで、早急に検討に入ってもらえればと思う。
柘植 康英	○自治体のかたちは、国、広域自治体、基礎自治体という3つで構成され、やはり、基礎自治体、市が自治体の核だと思う。住民生活に直結する行政は、住民に近いところで行った方がよい。また、区の行政の力は市より劣るため、市を改廃して区を置く都構想は、基礎自治体の力が落ちる可能性がある。 ○基礎自治体間の連携、広域自治体間の連携、基礎自治体と広域自治体間の重複行政の解消が必要。 ○前回の河村市長の案、今回の大村知事の案は、自治体の改編を行わず、明確な連合組織をつくるもので、非常に現実的な案だと思う。その連合組織が自治体間の連携を一層強め、重複行政の解消を行うことで、サービスの向上、住民の益に資すると思う。 ○（ホールディングスは、）組織の上に新たな組織をつくることになり、屋上屋の感があるため、三重行政にならないように効率的な形でつくる必要がある。

鶴田 欣也	○現状は名古屋市と愛知県だけで検討を進めているが、各市町村にもそれぞれ思惑がある。構想だけで終わらせないために、他の市町村長や愛知県民にも理解をしてもらう必要がある。 ○中京都構想での人口の設定は400万人になっているが、他の大都市圏と比較して都市機能の集積度が低い。世界と闘える大都市圏になるためには、空港や公共交通機関のインフラ整備がまだまだ不十分だと思う。 ○愛知県の持つ歴史や文化、伝統産業に養われた技術を世界に発信することができれば、魅力ある都市圏のアピールになる。
中村 捷二	○民間では、持株会社があるので、ホールディングスは、一つの仕組みづくりという点で有効な手段だと思うが、持株会社には屋上屋となるケースもあるため、注意が必要。 ○4つの分科会のテーマは、どれも重要。中でも、教育に力を入れて取り組んでいただきたい。また、政策の根本には、この地域のグランドデザインが必要だと思う。

永谷 亜矢子	○都市基盤・防災と魅力創造・発信などでは抱えるソリューションが全然違うので、分科会で詳細を進めていった方がいい。 ○仕事でアジアや日本でも地方にいる機会が多いが、この地域は、これだけ日本に対して貢献をしている地域なのに、非常に印象が薄い。東京オリンピックのときに、名古屋にも立ち寄ってもらえるのかが重要になってくる。 ○この２年間でメディアを取り巻く環境も変化している。今後は、東京と大阪の間にあって情報も集まりやすく、住みやすく、土地代もそれほど高くないという、この地域のメリットを生かして、日本を代表するようなゲームや映像などのクリエイターやコンテンツ産業を育てるようなまちづくりをすることも重要ではないか。 ○アジアから見た日本の魅力としては「食」もあるので、名古屋めしも押し出しつつ、「食」を集めた大きなイベントをしてもいいのではないか。 ○魅力創造・発信の観点からも、次世代に向けたまちづくりや働く環境の整備をしていく必要があるし、誰もが知っているイベントを開催することも今後重要ではないか。 ○イベントやコミュニティづくりなどでママ達を盛り上げていくことができればいいと思う。
---------------	--

濱口 道成	○愛知県は日本の黒字の5割を工業量で稼いでおり、35年にわたり工業生産出荷額日本一を続けている。また、多様な工業に携わっている県民が約80万人いる。我々は、このことを自己認識し、工業をキーワードに、戦略的に、アジアでもっと展開するべき。名古屋大学では、「アジアのリーダーになるような人材を大学院で育てる」をキーワードに取り組んでいる。 ○分科会を通して、東京圏、関西圏とは違う我々の価値に基づいた構想を具体的にし、愛知県と名古屋市で共同してやっていけば、非常に大きな力になるのではないかと期待している。 ○「若者・女性支援」分科会の目指すべき姿である「世界で活躍する人を育む地域」というのは素晴らしい。 ○名称について、“支援”するのではなく、リーダーを育成していくような、志をもたせるようなキーワードを入れていただけたらと思う。
浜本 英嗣	○この地域の特色やアイデンティティを明確にアピールし、目標を提示しなければ、構想の中身が伴ってこない。 ○世界にアピールする際のポイントは、この地域の豊かさを象徴する製造業の力と技術力の高さ。これを抜きにして、この地域の目標設定や将来の発展は、基本的にはないだろう。 ○技術力や工業の力に焦点を合わせた研究機関や高度な教育機関をアイデンティティにするとともに、これらの集積力を高める必要がある。

安田 文吉	○地元意識が重要である。三河と尾張でも方言が違うが、一つの県になっている。違いをしっかりとつかんで、一つの体制をつくることが大事である。 ○人口減少の問題は大きい。インドネシアやカンボジアは皆非常にエネルギッシュである。 ○教育については、子どもたちが自由にする力を伸ばしてやらないといけない。 ○世界と議論するためにも、国語力が落ちているのは由々しき問題である。 ○三河生まれ三河育ちの徳川家康が尾張に出てきて、愛知県が一体になったという歴史的経緯をふまえないといけない。 ○方法論について議論をすべきときは終わったと思うので、具体的にどうすべきかを分科会で議論をしていけばいいと思う。
--------------	--

第4回中京独立戦略本部会議 議事概要 その2

本部長	「中京都のあり方について」の説明
大村 秀章	○「中京都のあり方」について、2011年2月の知事選、市長選の共同マニフェストの中に中京都の創設を掲げたが、『重複行政の徹底排除』、『国への依存から、国からの自立へ』というのが、中京都構想の原点になっている。 ○中京都の将来像は、日本屈指の産業集積地である愛知と、大都市機能が集中する名古屋を合体し、一体となって自立・独立を果たすとともに、強力な司令塔のもとで二重行政を排除しながら、道州制も見据えつつ、世界と闘える大都市圏として発展していくというもの。 ○今日は、こうした経緯や議論を踏まえて、一つの私案をお示ししたいと思う。名古屋市を分割せず、強力な地方政府、自治体をつくり、世界に打って出ていくということをベースにしながら考えた。 ○ポイントは、県と市を包含するホールディングスをつくること。ホールディングスは、企業でいうと、基本的な方向性、ベクトル、経営方針などをホールディングスの下で強力につくり、そのグループ内企業がそのベクトルを睨みながら、それぞれ役割分担して力を発揮していくという経営統合の手法。中京都ホールディングスをつくり、その下に県と市という形の自治体を、現行のものをベースとしながらぶら下げていく。 ○例えば、企画調整、ビジョン策定、行財政改革、防災など危機管理、観光、イベント、コンベンション、国際戦略などは一つにすれば良い。

	○中京都ホールディングスのトップは、知事・市長共同であたるが、将来的には、1人にするのだろうと思う。共同で対応する分野は、集約して直下で対応し、重複する分野は、統合していく形で協議する。また、本構想をさらに煮詰めて具体化していくため、県・市で構想連絡協議会を設置するというのが、あるべき方向なのではないかと思っている。 ○こういった形での法制度があるわけではないため、こうした方向性ができれば、当然、国に働きかけていくことになる。 ○当面の目標としては、7年後の東京オリンピック開催、その7年後のリニア中央新幹線開業。この7年後ごとの節目に向けた大きな目標、対応を県と市で歩調を一にして、共同で事業をやっていくのも一つの方法ではないかと思う。 ○中京都の実現に向けた政策面の検討イメージについては、昨年、産業活力、都市基盤・防災、魅力創造・発信、若者・女性支援において、県と市で共通の目標、方向をつくって進めてはどうかというご議論をいただいたことから、この4つの政策分野に分けて、今後、分科会を設けて進めていってはどうかというご提案である。
--	--